

県庁周辺エリアアイデアコンペ

「寿司といえば、富山」の象徴となる施設、寿司のテーマパークを提案いたします。

県庁周辺エリアの現状と課題：県庁周辺エリアは富山駅から徒歩 15 分以内の好立地の場所ですが、現状はオフィスワーカーが中心で、活気ある場所とは言えない状況となっています。また、富山駅からまちなか商店街地区の中心エリアにあるにもかかわらず、途中を歩いて楽しむ場所も少なく、まちの賑わいに乏しいエリアとなっています。

エリア1:とやま、寿司の結集

お隣、金沢市の近江町市場のような場所を目指し、明るい屋根のあるアーケードを設置した通りに、富山にあるお寿司屋さんを集めます。回転ずしは究極のファーストフードであることを活かし、時間のないオフィスワーカーにも、観光客をはじめとするお客さんにも、数多くのお寿司屋さんを巡り、食べ比べを楽しんでもらえる場所になって欲しいと思います。



「屋根のある」に拘りたい理由は、富山に多い雨や雪の日でも、天候に左右されることなく楽しめる施設でありたいと思うからです。(写真 A)
天候に左右されない体験施設は、1 年中の来訪者が見込め、多くの賑わいが期待できます。

A.屋根のあるアーケードの例(近江町市場)



参照:いこーよ

天井からは柔らかな日差しも取り込みつつ、木の持つ温もりも加えたいため、すりガラスと木材の調和を楽しめる場所になります。(写真 B)



B.金沢駅前

この場所ではフラットと立ち寄り、食べ比べてみたい人にも対応できるように、立ち食いスペースを各店舗に設けます。また、2 階には座って食べられる場所を設置します。(写真 C)

C.立ち食い寿司の例(豊洲先客万来)



参照:地域活性学会 JK | 実務家研究者応援サイト

2 階はフードコートのように繋がっていて、様々なお店の商品を買い集めて食べることができるスペースとなっています。ここで働く方は、県が「寿司職人お試し就職支援事業」と題して集った寿司職人のタマゴの方々です。

エリア2:とやまのお寿司のネタを知ろう

また現公園の噴水周辺エリアには、水辺として、富山の「天然のいけす」を再現した富山湾に豊富に住む、生きたままの魚を展示し、小さな水族館を作ります。(エリア2)
水槽は水深 5 メートル程度にし、自由に泳ぎ回る魚の姿を楽しむ場にします。(写真 D)



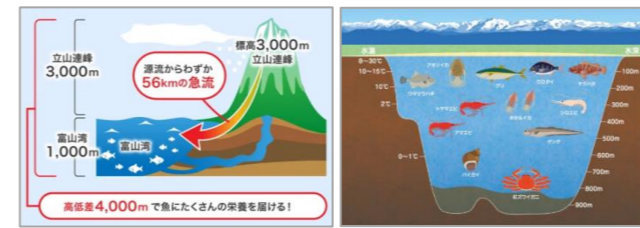
その周辺には、富山湾の地形から「天然のいけす」と呼ばれる由来まで子どもたちや、海外の人たちにも伝わるよう、多言語対応したパネルやサインージを設置し、学習できるコーナーを作ります。(図 E)

D.天然のいけすをイメージした水族館の例(ウオット)



参照:いこーよ

E.天然のいけす学習パネルの例



参照:【事実発掘! FACT JAPAN 47 NO.45】富山県

また、ミニ釣り堀(写真 F)コーナーや、ホタルイカの季節にはホタルイカに触れ合える場(写真 G)を設置します。

F.ミニ釣り堀の例



参照:イベント 21

水槽の中に入れる魚は富山県らしい魚や海老など、季節によって違う種類を展示します。
釣った魚は、2階の職人さんに捌いてもらい、その場で食べることもできます。

G.ホタルイカ触れ合いの場の例
(ホタルイカミュージアム)



参照:とやま観光ナビ

このエリアでは、富山の魚を楽しく理解し普段気にせず食べている魚にも興味をもってもらえる場所にします。

エリア 3:お寿司のアーケード

エリア1と2から、富山県庁まで直通のアーケードを設置し、開かれた県庁として一般の方々を広く県庁へ誘導します。下の道路はそのまま使えるよう、2階にアーケードを設置します。アーケードの中は写真映えするようにお寿司モニュメントを随所に設置し、県庁までの空中体験を写真スポットにいたします。ガラスでできたお寿司をメインにアーケード内両側に複数設置し、一般的な観光地の顔はめパネルの代わりになるような場所を目指します。



エリア 4:富山県庁クイズラリー

古くからある富山県庁の建物はそのままに、開かれた県庁となるよう【お寿司の架け橋】から悪天候でも濡れずに入りやすい設計とします。

歴史的な価値のある部分を、楽しみながら理解してもらえるようにクイズに答えながら次の場所へ誘導します。(写真L)



H.映え写真イメージ(手乗り寿司(上)・寿司セット(下))

映え写真(写真H)を撮影する方法についてはまるで寿司を持っているかのように写真がとれるスポットを設置し、撮る位置のガイドを提示、「そこで撮って！」と案内し、最高の映え写真がとれるように演出します。(写真I)

I.写真スポット案内(豊洲市場)

参考:ザ・豊洲市場



またその場には、「#(ハッシュタグ)すしといえばとやま」で Instagram に投稿してもらえるよう、案内を出します。(写真J)

J.SNS 投稿 OK 案内版の例

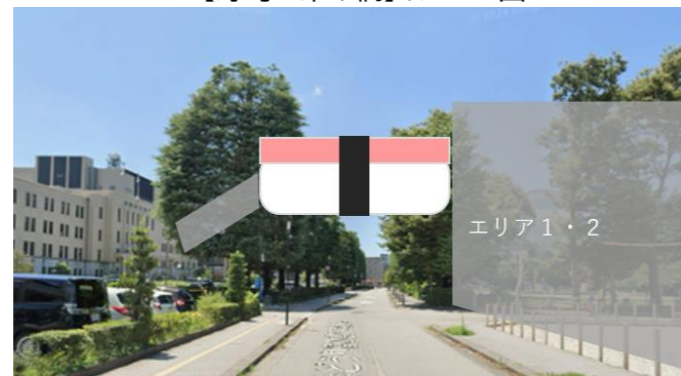
参考:Rakuten(サインプレート)



参考:富山市「すしのまちとやま」公式 X

K.【寿司の架け橋】イメージ図

寿司エリア 2 階から県庁につながるアーケードは、41 号線から通りすぎるときにも、思わず撮りたくなるような「寿司アーケード」にします。その名も【寿司の架け橋】です。インパクト重視の外観にし、通過する人でも撮りたくなるような場所にします。



5~10 問のクイズを出題し、ゴールとなる場所には記念撮影ができるスポットを準備し、写真が撮りたくなる環境を整えます。

また撮影した写真は「#(ハッシュタグ)富山県庁」と投稿してもらい、投稿者の中から、毎月複数名に富山県産品をプレゼントします。

L.昭和 10 年に建築されたモダニズム様式の近代建築の例(上)(下)



参考:とやまの文化遺産

エリア 5:緑の広場

現在、県庁の駐車場となっているエリアは、駐車場を一部残しつつ、天気の良い日は木陰で休憩ができるよう、大き目の樹と、ベンチを設置し、憩いの場としての広場を作ります。



5つのエリアの可能性

- ①歴史・水辺・緑の全ての要素を取り込み、従来からのオフィスワーカーだけでなく、富山に初めて訪れる国内外の観光客に向けても魅力を感じるエリアとなっています。
- ②富山駅から徒歩 15 分内エリアで富山を満喫できるスポットとなっており、そこから先の富山城への観光や、まちなか商店街への周遊性が高まる可能性が大きくなります。
- ③また、県内の寿司職人や、これから職人となる職人のタマゴにも活躍の場として活用してもらうことができ、多くの人が集まる、富山を代表とする施設のひとつになります。

また、観光客も多く集まることが想定できるため、富山県における外貨獲得の大きな影響を与える場となり、「寿司といえば、富山」の県外への発信力もとても大きい場となること間違いなしです。